

筑波大附小

○堤 貴美子

目的 食生活を取りまく現状として 食品の貯蔵・加工技術の進歩に伴って食物は豊富になり、多様化してきたことが掲げられる。この現状の中で 児童・生徒の消費者教育を含めた 食品衛生面での指導の必要性を感じ、小学校、中学校、高等学校における「食品添加物」の指導に関するカリキュラムを作成し、実践した。今回は 日常、家庭において購入率の高いと思われる「飲み物」に関して 小学校の家庭科において実践したので報告する。

方法 小学校の家庭科、中学校の技術・家庭、高等学校の家政一般の教科書及び文部省の学習指導要領を参考に 食品添加物の指導に関するカリキュラムを作成し、まず最初に小学校において実践し、研究を行った。題材は「毎日の食事」、学習の効果は 事前テスト、事後テスト、及び定着テストにより観た。

結果 ・今回の小学校第六学年対象の授業において 日常の食事の変化よりはむしろ「おやつ」に関する食生活への影響がみられた。

・小学校において着色料の検出実験が 適当であったことにより、中学校においては、日常食に関する添加物の学習を、高等学校においては 消費者としての添加物に対する学習を行うことが望ましいと思った。

今後、中学校、高等学校についての研究を進めて行きたいと思う。